



名古屋いのちの電話



詩人の加藤さんのおどり

写真 文珠幹夫

三月のうた

私は花を捨てて行く
ものみな芽吹く

三月に

私は道を捨てて行く

子等の駆け出す

三月に

私は歌を捨てて行く

雲雀さえずる

三月に

私は愛だけを抱いて行く

苦しみと怖れと

おまえー

おまえの笑う

三月に

谷川俊太郎「祈らなくてもいいのかー未刊詩集」より

いのちの電話への期待

アジア保健研修所長 川原啓美
愛知国際病院長

私は、最近よくアジアの国ぐにへ出かけます。私たちが数年前から始めた、アジア保健研修所（AHI）の働きに関する仕事が主であります。このAHIと申しますのは、アジアの発展途上国の僻地や、都会のスラムに住む恵まれない人びとの健康を守るために、献身的に働く保健・開発ワーカーを育てる研修所であり、日本では愛知郡日進町の愛知池のほとりにある研修所で、そして国外では、インド、ネパール、フィリピン、インドネシア、韓国の5カ国で、それぞれ毎年研修コースを開いております。

ご承知のように、日本人の平均寿命は、男性76才、女性は81才と、世界のトップレベルに到達しました。乳児死亡率は、1000人中わずか6.5で、これも世界第1位であります。

ところが、日本を1歩外へ出たアジアの国ぐにではどうでしょうか。平均寿命は依然として50才代、乳児死亡率も、1000人中100以上、所によっては200以上にも及ぶというのが実情で、人びとは低栄養と悪い衛生状態の中で苦しんでいます。このような人びとの健康状態を少しでも改善しようとして、AHIでは、その国の中で働く医師や保健婦さんなどを招いて、研修をしてもらっているのです。



さて、私がアジア諸国へ行って目にする光景は、道路や、家の間をはだして群れ歩いている多くの子どもたち、その顔色は悪く、ほとんど一様にやせています。しかし、ふしぎなことに彼らの顔はともあかるく、目は輝いているのです。子たくさんですから兄弟は多いのですが、上の子たちは弟妹の面倒をよくみて、仲よく暮らしています。自分でもとてもひもじいのに、それを抑えて幼い弟妹たちにわずかな食物を分けてやっています。

そのような助け合いは、家族の間だけではなく、隣り近所に及びます。病気や大けがをして入院する必要が生じると、近所の人たちがみんなで病人をかつぎ、鍋釜をさげてやってきます。そして交代でつきそうです。貧しく、困っているからこそ助け合うのであり、その心はとても暖かいのです。

私はアジアの国へ医療協力のために出かける時に、いつもこのような豊かな心を持った人びとに出会い、人間として彼らに深く教えられます。

日本へ帰って来ると、私は一面では、豊かで清潔で安全な生活にほっとしますが、他面ではそのような中で深刻に病んでいる人びとに出会い、暗い気持ちになります。子どもたちは、学校と学習塾での勉



強のノルマに押しつぶされそうですし、親はそれがわかっていても、少しでも良い学校へ入れることで子どもによりよい将来が約束されると信じて、やめることが出来ません。いじめの対象になる子どもたちは、兄弟が少ないために、昔のように家庭の中でその傷をいやし、立ち直ることができず、学校へ行くことを拒否するようになります。

アジアの途上国は農業国であり、国民の20パーセントしか都会には住んでいませんが、日本では70パーセント近くが都会生活者であります。そしてその中で、激しくきびしい生存競争の日々がくりひろげられます。

都会のスラムでも、途上国のスラムには生活があります。子どもたちがかけまわり、家族と一緒に暮らしているのが普通です。しかし日本では、生存競争に破れた人びとが、家族や友人から離れ、独りさびしく暮らしています。私は、いわゆる住所不定の幾人かの人びとと、医師という職業をとおしてかかりましたが、彼らは一様に心優しく、他人を蹴落として競争に打ち勝つには、あまりにもおとなしすぎる人たちでした。日本のスラムは、この国の社会病理学的な問題の、一つのあらわれということもできます。

このように、世界一、二の経済大国の中に住む私たちの同胞は、物質的な豊かさの中で愛に飢えかわいています。私は外科医であります、それでも肉体の病に加えて心の病いのために苦しむ人たちと、前よりもずっと多く出会うようになりました。そして、その中には不幸にも自ら生命を絶ってしまう人があるのです。最近の統計は、青少年と共に、老年期にはいった日本人の間に自殺者が激増しているのを示しております。

名古屋いのちの電話は、1985年開局以来、3年半



の年月を経ました。この働きを生み出し、育てて来られた方がたの努力を心から感謝し、敬意を表します。高度に工業化され、狭い国土の中に多くの人びとがひしめき合い、競い合って住んでいるわが国で、いかに多くの人が愛に飢え、心を開いて語る友を欲していることでしょうか。いのちの電話は、そのような人たちが絶望し、生きる望みを失ってしまう前にまわすダイヤルとして、本当に貴重な存在であると思います。

カウンセリングの真髄は、「よく聴く耳を持つこと」といわれます。ボランティアの中には、必ずしも人生経験豊富とはいえない若い方がたもおられることと思います。しかし、人生の深い苦悩の中にいる人と共にあろう、と真剣に努める時、自らの感性がみがかれ、心が深められてゆきます。そしてよりよい隣り人になれるのだと思います。

日本ではまだまだ根づいていない「ボランティア精神」が、この動きの中で少しずつ、しかし確実に育ってゆくことを祈ります。そして、この働きが一人でも多くの人に知られることを切に願っております。
(名古屋いのちの電話理事)

賛助会員募集中！

「いのちの電話」の運営資金は、その大部分を賛助会費と寄付金でまかっています。皆さまのご協力をお願いいたします。

<郵便振替> 名古屋 1-53758

<銀行振込> 東海銀行 大津町支店(普通) 477029

口座名義：名古屋いのちの電話

相談員の あなたへ

おかあさん、朝から昼すぎまでべんきょうをするのはたいへんですか？

私はたいへんだと思います。

だっていっしょうけんめいべんきょうをして帰りに夜のごはんのおかずをかって電車にのって家に帰ることをたいへんだと思うのです。

私もそういう人のためになるしごとがしたいな。

と、思ときがあります。だけど私は

おかあさんだけたいへんとは思

いません。そのほかにもたいへん

なことやっている人にも

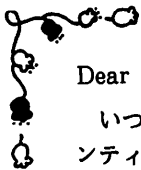
おなじきもちです。



娘たちから
おかあさんへ

お母さんは時々“勉強会”に出かける。でもわたしはそこでどんなことをしてるのかは知らない。でもよくわたしは聞くことがある。お母さんは何をしに行くのか、とても聞きたくなることがあるからです。すると、「いろんな人のなやみを聞いてその人を幸せにしてあげるんだよ。」と、答えます。わたしは何もなやみはないがわたしも、一度電話をして見ようかなと、思うことがあります。でもお母さんが出ると、ちょといやだなと思うだけどなやみもないのにただかけて見ただけだったらおこられてしまいます。

娘から母へ



Dear お母さん

いつもいつもご苦労さまです。ボランティアをしているお母さんは毎日がハードスケジュールのようで…うちにはおばあちゃんがいて、お留守ばんなんかをしてくれるから、お母さんも安心して家をあけるのですネ。But おばあちゃんは足が悪いし、立って玄関へ出て行くのは辛い様です。前までは、いそがしそうに飛びまわっているお母さんに対して「ボランティアも大切だけど主婦としての仕事だって…」と不満をもってた。だけど考えてみればK子も今年で17歳、家のこともきちんとできるような年だもん。お母さんが家

にいないときぐらい夕食のしたくとか、お手伝いをしなくちゃいけないみたい…K子も“遊び”という仕事がいそがしくて、いつも家に帰るのは夕食がはじまる頃で、美味しく食べる協力だけになっている。お母さんの今していることは、大げさにいえば人の命がかかっていることだもんネ、ボランティア、主婦、母親、三つの両立は難しいけど、体に気をつけて頑張っ

ネ！
Fight！

From, 末っ子のK子ちゃん



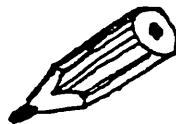
家族からの

メッセージ

今は情報の時代。茶の間に居て、ドラゴンズ優勝のシーンも、リクルート疑惑も、映像と音声で簡単に知ることができる。この便利な時代に、言葉だけで相談に応じるなんて何と不便なシステムかと、最初聞いた時は思った。

しかし、お前の研修が進むにつれ（概要しか教えてもらってないが）、どうもそうではないという気がしてきた。

目からの情報（顔色、身振りなど）が無く、言葉のやりとりだけでは非効率的だと思うが、利用者の立場からは案外良いシステムなんだろう。お前の耳が唯一のセンサーなので、当番の前日は文句をなるべく言わないようにしている（つもり）。世の中のどなたかのお役に立つことなので、健康の許す限り頑張ったらと思っている。



夫から妻へ

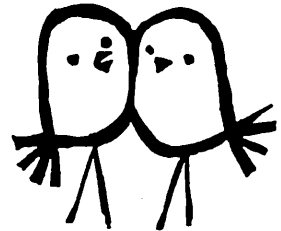
拝啓23年目の連れ合い殿へ
愚痴ひとつつらいひとつ大晦日。去年詠い納めの拙句です。電話相談を担当されて、これで二度目の大晦日の夜のご苦労さまです。なにごとにも一生懸命で勉強家のあなた様は、ひとつの道を作ることにどんな世界を広げ羨ましい限りです。せつせといのちの電話に通うあなたに大変だとは思いますが、「ああ草臥れた」の言葉を聞けば「電話やめたら」と心にもない事を言ってみたくありません。いのちの電話でどんな事が有ったのか全く話して下さいません。当然とはいえ二人の間の秘密の部分として、いのちの電話がアんと居すわっています。それで愚痴が出るのかな。でもこの頃若い人達の自殺のニュースなどを聞きますと、あなたに頑張っしてほしいという気持ちが起こります。電話の当番で日曜日にも出掛けて行くうしろ姿に、ご苦労さま、頑張れとささやかな声援を送っています。苦しみ悩む人達に、優しくおだやかに語りかけているあなたの姿が、はつきりみえます。せめて邪魔にならないようにとは思いますが、私には少しの時間でいいのです。話相手にもなって下さいね。

かしこ

妻から夫へ

ぼらんていあひろば

初々しくデビュー 4期生です



4月から始まった研修も、いよいよ大詰めになってきました。でも基礎訓練の時から私についてまわる問題はいつも同じです。始めは少し、でも決してなくなる事なくだんだんとその正体を表わして私にせまってきます。第一回目のスーパービジョンでもやはり同じ壁に当たり、「ああ、またか」と、改めて自分が長年かかって作り上げてしまった自分を崩す難しさを痛感します。そんな時、同じように悩んでいた、また、笑っている仲間が私のなぐさめであり、明日への希望なのです。

M. O.

3月某日、

小生 「今度のいのちの電話の相談員の研修を受けることにしたよ。」

妻 「そう、でも仕事に追われているのによくやるわね。」

小生 「で、いろいろ協力してもらわねばならないのだが、君も職業持ってるので家の事何か協力するよ。」

妻 「じゃあ毎日おふとんのあげさげを頼みます。」
その後10カ月毎日欠かさず行っている。一つ進歩した。

12月初めて電話を取った。いつもは「この忙しいのにそんな人の話聞いてられないよ。」という私が真剣に心を込めて聞いた。また、一つ進歩した。

“我以外皆師”

でもまだゴルフやってる方が楽しいな。

K. T.

1988年の4月9日（おりしも私の誕生日）の面接に始まり養成講座も10カ月余りが過ぎた。最初はいろいろな人と知り合え、いろんなゲームもし、ためになる話も聞いて毎週とても楽しかった。でも今は、電話に出て自分の無力を感じ「ハァー」とため息、スーパービジョンで注意を受けて自信喪失で、「シュン」とあーあ、あの楽しさはいったいどこへ？

でもセンターにくるたびに先輩の暖かさ、すてきな笑顔にふれるたび、また頑張るぞという気持ちになる。そんな私は単純なのでしょうか？

S. T.

様々な学習の場面で、「あなたは、どうなのか」と、問われて、自分自身のウソに気がついたり、色々なメガネと向き合わなければならない体験をしました。正直なところ、投げ出したい時もありましたが、私達を指導して下さる先生方のヒューマニティあふれるお話しに、静かな感動を覚え、研修生の世話を引き受け正確に動く事務局に感心したりし、ここまで来ることができたように思えます。人間に対する限りない親しみと、関心を忘れずに、第4コーナーをまわりたいと思います。

Y. U.

